

第8学年 特別の教科 道徳 学習指導案

日時 令和6年11月1日(金) 第6校時

学園生 8年A組 25名

授業者 増子 和彦・上野 嗣弥

1 単元名 「自分らしく生きる」

(内容項目D—(22) よりよく生きる喜び

C—(15) よりよい学校生活、集団生活の充実)

2 単元の計画 (全4時間)

こころスキル	題材名	ねらい	授業者
レジリエンス	自動思考に目を向けよう	「出来事」に対して、パッと思い浮かぶ「考え」に目を向け、考え方の幅を広げる。	上野
	怒りの気持ちに目を向けよう	「怒り」について学び、怒りの感情との付き合い方を考える。	上野
	コミュニケーションスキル	考えたことを素直に表現し、相手に伝える方法を学ぶ。	上野
Well-being 本時	Happy になろう Well-being を目指して	自分のポジティブな面に目を向け、自ら進んで環境に働きかけることを学ぶ。	増子 上野

3 本時のねらい

この教材では、脳科学の視点から、私たちの日常生活の中に当たり前のように存在するがため、気付かれずに体験している「Happy」なことに目を向け、それらを意識化し捉え直すことで、自分から「Happy」になれる行動や考えを実践できるようになることをねらいとしている。「Happy」な情報が記憶化され、いつでもその記憶にアクセスできる状態を「Well-being」と定義すれば、自分が「Happy」と感じることを自覚し、自ら進んでその行動・行為・事象に触れ、感情を伴って味わうことがとても重要となる。それを意識して体験することを繰り返すことで、自分で自分を「Well-being」にすることができる。授業では、「Happy」を感じる時に脳内に放出される神経伝達物質の特徴を学び、自分に目を向け、自分がどんなときに「Happy」を感じるかを見つめ直すことで、自己理解を深める。また、友達と交流することで、多様な価値観に触れさせる。それらを通して、自分の好きなことに対して自信をもって行動できる姿勢と、同時に友達が好きなことを実践することに対する尊重する気持ちを育みたい。そうすることで、学園生一人ひとりが、安心して自分で「Happy」「Well-being」を創り出すために、主体的に環境に働きかけることができるようになり、さらに心理的安全を感じる居心地の良いコミュニティづくりができると考えられる。

4 大空学園の研究にかかわって

【仮説1】自分の見方・考え方と他者の見方・考え方を比較することによって、他者を認めたり自分らしさの価値に気づいたりできるだろう。

個人ワークで、自分の「Happy」を感じる見方や考え方について自分と向き合うことで、自分らしさを実感することができるだろう。また、それらを友達と比べ、違いを知り、他者が大切にしている「Happy」なことを認め、受容的に捉えられるようになることを目指す。

【仮説2】「グループ学習」を意図的に設定し、多様な見方・考え方を肯定的に捉える経験をすることで、主体的によりよい環境を築こうとする態度をもつことができるだろう。

グループワーク、全体交流と「グループ学習」を意図的に設定し、考えを聞き、より多様な考えを知るとともに、お互いに尊重し合え、今後、学級の中で安心して「Happy」な行動・行為が行える素地を育む。また、能動的に「Happy」を得ることができることを知ることで、主体的に生活に働きかけようとする態度をもたせる。

5 本時の目標

個：日常生活の中にある「Happy」なことに目を向け、それらを意識化し捉え直すことで、自分から「Happy」になれる行動や考えを実践しようとする意識をもつ。(内容項目D)

集：多様な価値観に触れさせ、それらを尊重する気持ちを育むことで、「Happy」「Well-being」を創り出すために、主体的に環境に働きかける態度を養うとともに、心理的安全を感じるコミュニティづくりをしようとする意欲を高める。(内容項目C)

6 本時の展開

	学習活動	□評価 ◆留意点	●こころのスキルアップ 教育の視点
か か わ る	1. 「心ってどこにある？」という発問から「心」について意識させる。	◆ありのままに考えたことを発表させる。	●自分がどのような「考え」「感じ方」をしているか自己認識を確かめる。
	2. Happy な自分になるために、『脳の仕組み』を知る。	◆パワーポイントを使って、視覚的に理解しやすいようにす	
自分の「Happy」と「Happyになる」ことについて考えよう。			
つ な が る	3. Happy の4つの面について知り、自分がHappyを感じる場面を考える。 ①個人ワーク ・自分がどんなときに「Happy」を感じるか、具体的な場面をあげて、意識化・言語化する。 ②グループワーク ・多様な「Happy」に目を向けられるよう、友達と交流し、自分の見方・考え方と他者の見方・考え方を比較する。 ③全体交流 ・ほかのグループの考えを聞き、より多様な考えを知るとともに、お互いに尊重し合え、安心して「Happy」な行動・行為が行える素地を育む。	◆友達との交流を通して、新しいものの見方や考え方に気づけるよう声かけをする。	●どんなときに「Happy」を感じるか、具体的な場面を思い出させ、自由にワークシートに記入させる。 ●自分とは違う感じ方を知ることによって、自分の考えの幅を広げる。 ●グループ活動で取り組ませ、自分自身への理解に加え、他者理解・多様性の理解につなげる。

<p>「Happy」を感じる事は、人によってさまざまであり、それらを安心して実行できるとみんなが「Happy」になれ、クラスが「Well-being」になる。</p>			
ひろげる	<p>4. グループワーク・全体交流を生かし、4つの神経伝達物質の特徴から、自分の生活を見つめ直し、改善点を見つけるとともに、「Happy」を味わい直す。</p> <p>①個人ワーク</p> <p>②全体交流</p> <p>5. 今日感じたことや考えたことを書く。</p>	<p>◆机間指導や全体発表を通して、自分なりに考えがもてるように支援する。</p> <p>□「自分らしさ」と「多様なものの見方・考え方」について、考えることができたか。</p>	<p>●「Happyを感じやすい脳」を作るための仕組みやヒントを伝え、日常生活に生かせるよう働きかける。</p> <p>●日常生活で生かし、自分で「Happy」を生み出そうという意欲をもつ。</p> <p>●「今日の振り返り」を通して、自分自身との対話を深める。</p>

7 本時の評価

個：日常生活の中にある「Happy」なことに目を向け、それらを意識化し捉え直すことで、自分から「Happy」になれる行動や考えを実践しようとする意識をもつことができたか。(内容項目D)

集：多様な価値観に触れさせ、それらを尊重する気持ちを育むことで、「Happy」「Well-being」を創り出すために、主体的に環境に働きかける態度を養い、心理的安全を感じるコミュニティづくりをしようとする意欲を高めることができたか。(内容項目C)